



BOTTLETS JAPAN HOLDINGS INC.

Paint it RED! 未来を塗りかえろ。

Mission

すべての人にハッピーなひとときをお届けし、
価値を創造します

Vision

- すべてのお客さまから選ばれる
パートナーであり続けます
- 持続可能な成長により、市場で勝ちます
- 常に学びながら成長します
- コカ・コーラに誇りを持ち、
誰もが働きたいと思う職場をつくります

Values

- 学ぶ向上心を忘れません
- 変化を恐れず機敏に行動します
- 結果を見据え最後までやりきります
- 誠実と信頼に基づいた気高い志で行動します



目次

イントロダクション

- 1 企業理念
- 3 目次
- 4 情報開示体系／編集方針
- 5 世界におけるコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス
- 7 日本におけるコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス

Part 1

9 価値創造ストーリー

- 11 代表取締役社長メッセージ



- 15 価値創造プロセス
- 17 マテリアリティ特定プロセス
- 20 マテリアリティ

Part 2

21 財務・非財務戦略

- 23 代表取締役副社長 CFOメッセージ



- 25 営業戦略
- 27 チャンネル別の取り組み
- 29 カテゴリー別の取り組み
- 31 SCM戦略
- 33 調達戦略
- 35 人財戦略

Part 3

37 サステナビリティ

- 39 サステナビリティ戦略

- 41 「CSV Goals」に基づいた取り組み

43 多様性の尊重



47 地域社会



51 資源



Part 4

55 リスクマネジメント

- 57 リスクマネジメント戦略

- 59 リスクマネジメント

- 65 TCFD提言に基づく情報開示

Part 5

67 ガバナンス

- 69 コーポレート・ガバナンス戦略

- 71 コーポレート・ガバナンス

財務情報／会社情報

- 79 2022年の経営成績の解説と分析

- 81 主要財務・非財務データ

- 83 社外からの評価
社外への賛同・参加

- 84 会社概要・株式情報

- 85 グループ会社／用語集

- 86 第三者意見

情報開示体系／編集方針

CCBJHグループの情報開示

私たちは、適時適切な情報開示を行うことにより、あらゆるステークホルダーのみなさまから正しく理解され、信頼される企業になることを目指しています。統合報告書は、財務情報と非財務情報につ

いて、広くステークホルダーのみなさまへお伝えすることを目的に制作しています。また、より詳細かつ広範なIR情報やESG(環境・社会・ガバナンス)情報については、Webサイトで報告しています。



編集方針

本書は、IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」および経済産業省「価値協創ガイダンス」を参考にコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社の価値創造に関連した報告に取り組んでいます。サステナビリティ情報については、Global Reporting Initiative「GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード」、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)最終報告書を参考にしています。

対象期間	2022年1月1日～2022年12月31日(一部2023年の報告事項を含む。各データの集計期間は2022年1月～12月末)	
対象範囲	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社*を対象としています(グループ会社の詳細はP.85参照)	
発行年月	2023年6月	
社名表記	CCBJHグループ(私たち)	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス(株)および連結子会社8社(コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社)(2022年12月末時点)
	CCBJI	コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)
	CCBJIグループ	コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)およびコカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社

* コカ・コーラ カスタマー マーケティング(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング(株)、FVジャパン(株)、(株)カディアック、コカ・コーラ ボトラーズジャパンビジネスサービス(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット(株)、(株)伴内酒店

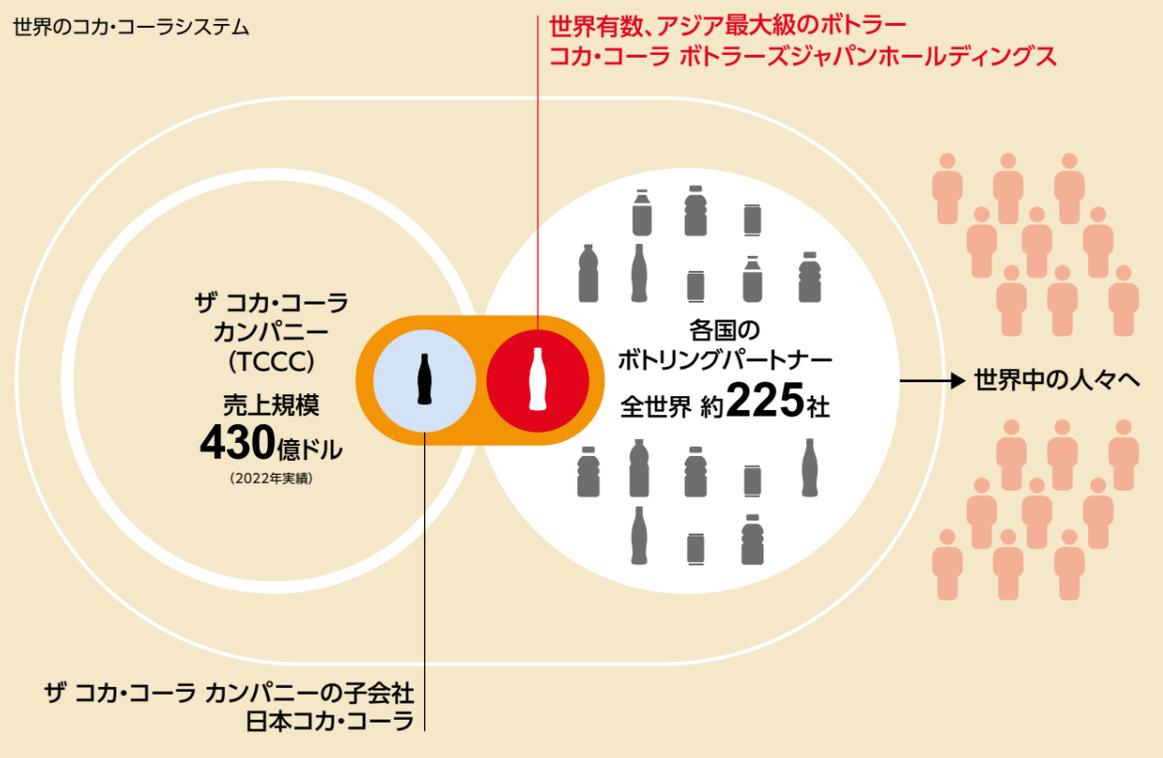
見直しに関する注意事項

本書に記載の計画、予測、事業戦略などは、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した将来の見通しが含まれています。これらの予想は、さまざまなリスクや不確定要因により、将来の実績と大きく異なる可能性があることに留意してください。また、業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、「2022年 通期決算説明会」資料をご覧ください。

世界におけるコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス

世界のコカ・コーラシステムの一員として

世界のコカ・コーラシステム



世界のコカ・コーラシステムとコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス (CCBJH)

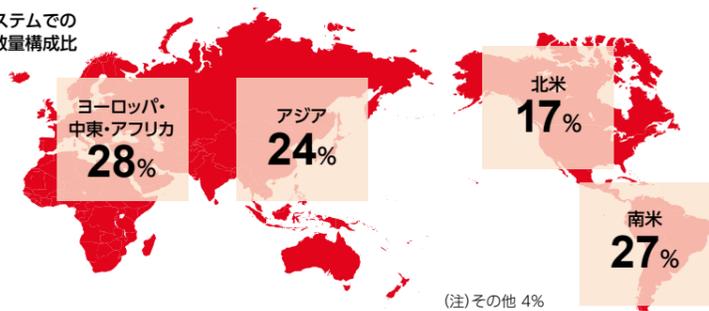
1886年、アメリカ合衆国ジョージア州アトランタで生まれた「コカ・コーラ」は、ザ コカ・コーラ カンパニーを中核に、「コカ・コーラ」をボトルに詰めて販売する権利を多くの会社に付与するフランチャイズ方式でアメリカ全土に広がりました。その後、各国でボトリングを担うフランチャイズ会社の工場が設立され、世界中に広がっています。

ザ コカ・コーラ カンパニーは、エリアごとに認定されたボトリングパートナーに製品のもととなる原液を販売する事業をしています。ボトリングパートナーであるボトラーは、原液と蒸

留水や炭酸水、甘味料を組み合わせることで完成した飲料を、パッケージ化することや容器に入れることで製品として販売しています。コカ・コーラシステム全体では、200以上の国や地域で「コカ・コーラ」をはじめとする多様な製品を販売しています。

CCBJHグループは、ザ コカ・コーラ カンパニーの日本法人である日本コカ・コーラとフランチャイズ契約を締結しているボトラーのひとつで、日本の1都2府35県を事業エリアとしています。

コカ・コーラシステムでの
世界の地域別数量構成比



コカ・コーラビジネスを支える社員
全世界**70万人以上**

コカ・コーラ社製品の販売エリア
全世界**200以上の国と地域**

出典：ザ コカ・コーラ カンパニー2022
Business & Sustainability Report

世界のコカ・コーラシステムの一員である強みを活かして

コカ・コーラシステムは、ザ コカ・コーラ カンパニーと全世界約225社のボトリングパートナーで構成されており、200以上の国や地域で「コカ・コーラ」をはじめとするさまざまな飲料を販売しています。多くの知見や経験が蓄積された世界規模のこのネットワークは、当社の持続的成長および競争力の源泉の

重要なひとつであり、特に製品開発における連携、グローバル基準の基幹システムの導入やグローバルオペレーションへの参画、人財の交流といった点での密な連携が、コカ・コーラシステム全体のシナジー創出につながっています。

製品開発における連携

日本は世界のコカ・コーラシステムのなかで、1年に発売する新製品の数が最も多く、コカ・コーラシステム全体のイノベーションをけん引する役割を担っています。コカ・コーラシステムが誇るグローバル規模での製品開発・育成の体制や、強力なグローバルブランドへのアクセスは、当社の強みのひとつです。直近の連携の事例としては、コカ・コーラシステム初のアルコール飲料「檸檬堂」の日本における展開を皮切りに、アルコール飲料の企画開発がグローバルで行われることとなり、2022年にメキシコで「ジャックダニエル&コカ・コーラ」が発売され、2023年4月に同製品の日本での発売が実現しました。また、ヨーロッパNo.1*カフェブランド「コスタコーヒー」の日本市場での導入など、グローバル規模での強みを活かし、市場競争力の強化に取り組んでいます。

* アレグラ社 2021年 ワールドコーヒーポータル調べ

グローバル基準のオペレーション

当社は、バックオフィス、カスタマーサービスなどを一貫して担う統合ERPシステム「CokeOne+ (コークワン)」を導入しています。CokeOne+は、グローバルのコカ・コーラシステムで開発したERPシステムのテンプレートで、多岐にわたる情報の一元管理や可視化を軸に、複雑な業務プロセスを共通のプラットフォームで進めることを可能としており、経営分析力の強化や業務品質・プロセスの改善、効率化の推進などに役立っています。また、調達分野では、グローバルの調達組織であるCEPG (Cross Enterprise Procurement Group)と連携を図ることにより、世界規模の調達スケールの活用やグローバル基準の取引ガイドラインの整備などに取り組んでいます。

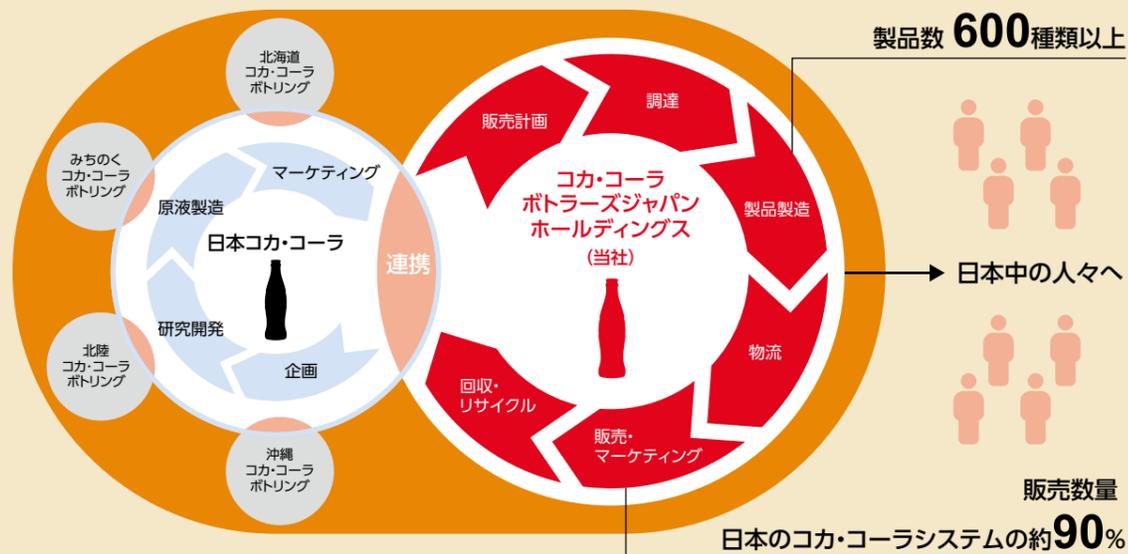
人財の交流

当社は、Coca-Cola Hellenic (中央・東ヨーロッパを中心としたボトラー)やCoca-Cola FEMSA (中南米のボトラー)、Coca-Cola Beverages Philippines (東南・南西アジア、インドを中心としたボトラー)などの世界のコカ・コーラボトラーと、成功事例の共有や長期的な協業関係の構築を目的に、人財の短期任用を通じた交流を実施しています。日常業務における会社をまたいだコミュニケーションも活発に行っており、部門レベルでボトラー各社の担当者が集まる会議などを定期的に開催しています。当社は、これらの人財交流の機会を活用し、グローバルビジネスの経験や知見、成功事例に基づく変革の推進や、社内のグローバル人財の育成に取り組んでいます。

日本におけるコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス

国内最大規模のボトラーとして

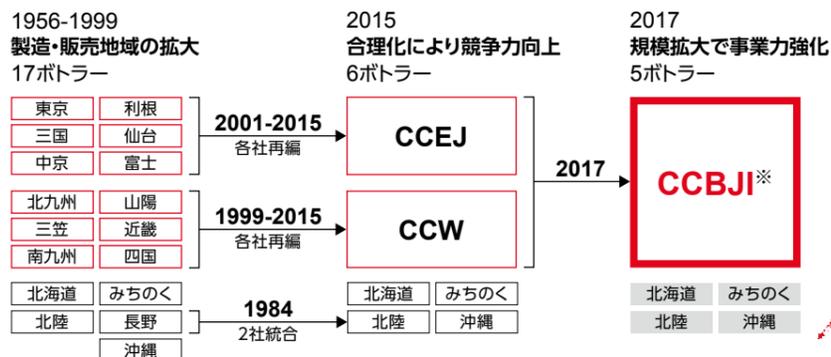
緊密に連携する日本のコカ・コーラシステム



国内における事業基盤強化の軌跡

日本のコカ・コーラシステムは、ザ コカ・コーラ カンパニーの日本法人として原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売などを担うボトラーおよび関連会社で構成されています。それぞれの強いパートナーシップのもと生産の効率化、徹底した消費者志向、市場への迅速な対応、顧客サービスの強化、厳格な品質管理など、コカ・コーラビジネスのさらなる成長を目指し協働しています。

日本においては、1956年に第1号のボトラーが誕生し、その後、全国に17のボトラーが誕生しました。1990年代以降、ボトラー間で再編が始まり、2017年4月にコカ・コーライーストジャパン株式会社 (CCEJ) とコカ・コーラウエスト株式会社 (CCW) が経営統合し、コカ・コーラ ボトラーズジャパン*が誕生しました。現在、当社を含めた5ボトラーで日本全国の「コカ・コーラ」をはじめとするさまざまな飲料を販売しています。



*2018年1月1日付でコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスに商号変更

蓄積してきた資本と強み

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社は、日本のコカ・コーラシステムの約9割の販売量を担う、国内最大のコカ・コーラボトラーであるとともに、世界に約225社あるボトリングパートナーのなかでも、売上高でアジア最大級、世界でも有数の規模を誇っています。

「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造する」というミッション達成を目指し、お客さま・お得意さまに安全・安心で高品質のコカ・コーラ社製品をお届けするとともに、きめ細やかなサービスを提供しています。

製造・商業資本	製造拠点 17工場	営業/物流拠点 約300カ所	自動販売機 約70万台
知的資本	日本の取り扱いブランド 約40ブランド	世界のボトリングパートナー 約225社	
人的資本	社員数 約14,500名		
社会関係資本	営業地域 1都2府35県	エリア内人口 約1億1,100万人 (5,300万世帯)	
自然資本	水使用量 13,287千m³	水源涵養率 420%	
財務資本	資産合計 約8,300億円	格付 A+(R&I)/AA-(JCR)	

2022年12月末時点